

第17回

十七島茂の会

平成二十六年

十月二十五日《土》

十五時開演(十四時十五分開場)

喜多六平太記念能楽堂

・仕舞
玉之段
友枝昭世

・狂言
瘦松
野村萬斎



○能

江戸

千之樹

長島茂

入場券 一階自由席 8,000円 二階自由席 6,000円 (ご希望によりプラス2,000円で指定席をご用意いたします。)

■お申し込み・お問い合わせ

自由席と指定席を販売 — 長島 茂 TEL: 090-6526-3871 喜多六平太記念能楽堂 TEL: 03-3491-8813

自由席のみ販売 — チケットぴあ(Pコード436-850) TEL: 0570-02-9999(音声自動認識) イープラス <http://eplus.jp/> ちけっとぽーと TEL: 03-5561-9001

主催: 長島 茂の会

共催: 文化放送

長島茂の会

平成二十六年
十五時開演(十四時十五分開場)

喜多六平太記念能楽堂
十月二十五日^土

【仕舞】

玉之段
友枝 昭世

【狂言】

瘦 松
山賊 野村 萬斎

休憩二十分

女 竹山 悠樹

佐々木多門
狩野 了一
栗谷 明生
大島 輝久

江 口

子之音

旅の僧(ワキ)が従僧(ワキツン)とともに都から江口にやって来ます。僧は里の男(アイ)に江口の旧跡を尋ね、西行法師の古歌を口づさりて懷旧にかけります。そこに里の女の遊女(ツレ)が現れ、西行と遊女の贈答歌の真意を説きます。女はいぶかる僧に、江口の前シテ)が現れ、西行と遊女の贈答歌の真意を説きます。女はいぶかる僧に、江口の君の幽靈だと告げて消えます(中入)。里の男が再び僧に会い、遊女が普賢菩薩となつて現れる奇跡を語り、供養を勧めます。僧が弔ひを始めると、月の光のもと、江口の遊女の亡靈(後シテ)が、一人の遊女(ツレ)と舟に乗って現れ、遊女の身のはかなさを嘆きます。舟遊びを見せ、棹の歌を歌つて、遊女の身と生まれた罪業や輪廻流转の道理をのべ、人間は所詮六塵(色・声・香・味・触・法)に迷い、六根(眼・耳・鼻・舌・身・意)によって罪を重ねる存在なのだと宿命を語つて舞(序舞)を舞い、やがて「それもこれも浮世の執心ゆゑ」と、一切の執心を捨てることが菩提の道であることを説いて、(後シテの)遊女は白象に乗った普賢菩薩となり、光明につつまれながら西の空に去つて行きます。

江

口

遊女
遊女

江口の君
里女

友枝
内田

真也
成信

千之掛
旅僧
森

長島
茂

【能】

小鼓

大鼓
國川 純

笛
大倉源次郎

一唄
笛

仙幸
常好

大倉源次郎

茂

大倉源次郎

中村
栗谷

明生
能夫

邦生
雅生

江口の里人
深田 博治

後見
内田 安信

江口の里人
深田 常太郎

地謡

金子敬
一郎

了 一郎

雄輝
久

江口の里人
栗谷 出雲

江口の里人
栗谷 中村

江口の里人
栗谷 明生

瘦 松

やせ

まつ

丹波の国(現在の京都府・兵庫県あたり)に住む山賊が、最近稼ざが悪いので、今日こそ何とか獲物を得たひとと谷間に隠れていたと、女が通りかかります。山賊は長刀を振り上げて女を脅し、持ち物を奪い取つて獲物を物色するが、隙をつかれて女に長刀を奪われてしまひます。長刀を向けられた山賊は手も足も出せなくなりります。

タイトルの「瘦松」は、獲物のない時を指す山賊言葉で、反対語は「肥松」となります。

さて、山賊の行く末はどうなものでしようか。山賊と女の掛け合ひをもう楽しみ下さい。

●終了予定
十七時四十五分頃

第18回 長島茂の会

平成27年10月24日^土

喜多六平太記念能楽堂

【能】「三井寺」長島茂

他に仕舞・狂言がございます。

ご注意・お願い

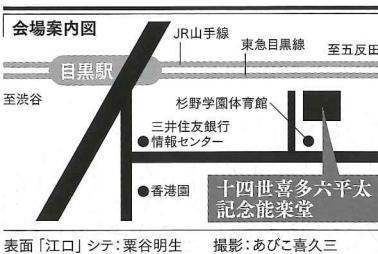
- 演能中は、携帯電話の電源、時計のアラーム等をお切りくださいますようお願いいたします。
- 場内での写真撮影及び録音は禁止されています。
- やむをえぬ事情で、出演者が変更になる場合があります。

入場券について

- 入場券は8月1日より受付いたします。
- 入場券はご入金確認後に送付させていただきます。
- 入場券及び指定席券の振込先

三井住友銀行 大富支店 普通 7201921
長島 茂

- お申し込みくださいました入場券及び指定券の払い戻しは、公演中止のほかは致しかねますのでご了承ください。



表面「江口」シテ:栗谷明生 撮影:あびこ喜久三